

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、名古屋市建築物 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)
環境配慮制度運用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)港明用地開発事業 商業施設	階数	地上4F
建設地	名古屋市港区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,500 時間/年
建物用途	物販店,飲食店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年3月1日
敷地面積	76,218 m ²	作成者	
建築面積	43,613 m ²	確認日	2017年3月1日
延床面積	168,288 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE3.7

★: S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	78%
③上記+②以外の	78%
④上記+	78%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.3

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 「みなとアクルス」における中核的な商業施設として、環境に配慮した技術を積極的に採用した商業施設の省CO ₂ モデルプロジェクトである。地域エネルギー供給事業者との連携によるエネルギーの削減への取組みを実施している。		その他 街区全体で「名古屋市低炭素モデル事業」に認定されており、環境配慮への取組みを積極的に行っている。
Q1 室内環境 大きな吹抜け空間の上下温度差に配慮した空調設備計画としている。吹抜けのハイサイドライトからの自然光を利用した昼光利用により省CO ₂ に配慮している。またテナントの用途毎に応じた空調計画により快適な高空間の温熱環境	Q2 サービス性能 バルブの操作や機器の点検など、維持管理に配慮した計画としている。長期に利用可能な材料を選定し、建物のLCCO ₂ に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の規模やデザインにおいて周辺環境に配慮した計画としている。外構には生態系の維持、観察に有効なビオトープや季節の木や草花を配置、環境学習に有効施設を整備している。
LR1 エネルギー コージェネレーションシステムと運河水を利用した高効率熱源機器による地域熱供給事業者からのエネルギーを利用することにより、CO ₂ 排出量の低減を図っている。	LR2 資源・マテリアル リサイクルによる再生材を広く採用し、省CO ₂ に貢献している。	LR3 敷地外環境 公共交通機関との連携による周辺住民への交通環境への配慮を行っている。雨水流出抑制基準の順守により周辺のインフラへの負荷軽減に貢献する他、大気汚染や悪臭、光害の防止への配慮をした設備計画としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される